

「福井新々元気宣言」推進に関する施策

「福井県民の将来ビジョン」に基づき、「福井新々元気宣言」の「元気な産業」、「元気な社会」、「元気な県土」、「元気な県政」に掲げられた政策等を実現するため、県民の理解と参加を得ながら、責任を持って職務を遂行し、次に掲げる施策・事業について重点的に実施します。

平成23年7月

福井県教育委員会教育長 広部 正紘

I 23年度の基本方針

福井型18年教育を推進します。

ゼロ歳児から高校卒業までの発達段階や社会的な成長過程に応じて、学校や家庭、地域等がきめ細かに連携するという視点に立ち、学校種間の接続を重視した一貫性のある教育を進めます。

児童生徒の確かな学力を育成します。

児童生徒の興味・関心を引き出す教材の開発や優れた指導方法の共有化、生徒による授業評価などを取り入れ、授業の改善を進めます。

また、中・高6年間を通した実践的な英語コミュニケーション能力の向上を行い、グローバル社会の中で活躍できる人材を育てます。

県民の期待にこたえる高校教育を推進します。

特別講座等による大学進学希望者の学力向上と、産業界と連携した職業教育のカリキュラムの充実により、高校生の進路の実現を支援するなど、生徒の学習意欲を高め、確かな学力を育みます。

国体に向けて着実な準備と競技力向上に努めます。

平成30年の第73回国民体育大会に向けて早期に会場地を選定し、競技施設の調査や改修への着手、競技力の向上、審判員・運営員の養成、広報活動など、「新しい国体」の実現に向けた準備を進めます。

Ⅱ 23年度の施策

1 日本のモデル「福井の教育」

◇ 日本の教育センター福井

・ 県外からの教員の受入れと交流の促進

福井県の教育を学ぼうとする県外の教員等を積極的に受け入れ、「福井の教育」を全国に発信するとともに、交流を通して他県と切磋琢磨し、本県の教育力を一層高めます。

県外からの学校視察受入人数（教育関係者）	110名
（平成22年度 102名）	

・ 「野外体験プログラム」の開発

小学校が2泊3日以上の特泊体験を実施できるように、青年の家等における体験活動プログラムを開発します。

・ 「第一人者とふれあう体験プログラム」の実施

各界の第一線で活躍する県外のプロフェッショナルを招いて、人生経験や職業観などを子どもたちに話してもらい機会等をつくります。将来の夢や希望をもち、意欲的に挑戦しようとする児童生徒を育てます。

学習状況調査で「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」と答える生徒の割合	中学校 15%
（平成22年度 中学校 14.0%）	

・ いじめや不登校を早期に解消

「福井県不登校対策指針」に基づき、小・中学校において不登校の未然防止・初期対応・自立支援の3つの柱からなる対策を徹底し、いじめのない、子どもたちが笑顔で登校できる魅力ある学校づくりを進めます。

不登校者数	小学校130名、中学校610名
（平成22年度 小学校160名、中学校630名）	

- ・一人ひとりの教育ニーズに応じた特別支援教育の充実【部局連携】
 気がかりな幼児・児童・生徒に対して、学校が教育支援計画や指導計画を作成します。教育ニーズに応じた支援を行うとともに、特別支援教育センターや特別支援学校等による巡回相談を充実します。
 特に、小・中学校に在籍する学習障害のある児童生徒を対象に、ICT機器を活用した個別実践指導を実施し、有効な指導方法を調査します。
 また、勝山南高校の一部施設を有効活用するとともに、環境にも配慮した奥越地区特別支援学校（仮称）の整備を進めます。

◇ 夢と希望を育てる学校

- ・家庭とともに進める幼児教育の充実【部局連携】
 幼児教育の実情を調査・分析し、家庭、幼稚園、保育所等の道しるべとなる「幼児教育プログラム」の策定作業に着手し、幼児期の子どもたちの成長を小・中学校における学習につなげます。
 また、幼稚園教諭・保育士の研修体系の一元化、幼児教育専門家の講演のほか、新たに私立幼稚園へ指導主事を派遣するなど、着手可能な事業を前倒しで展開し、福井型18年教育の土台づくりを進めます。

幼稚園教諭・保育士の双方を対象とした資質向上のための 研修プログラム (平成22年度 5件)	平成24年度実施 50件
指導主事の派遣を受け入れる私立幼稚園	10箇所

- ・子どもたちの夢と希望を伸ばし育てる教育の推進
 小・中学生が、職業調べや職場見学、職場体験で学んだことを「夢カルテ」に記録・保存し、進路について継続的に考えることにより、子どもたちの夢と希望を伸ばし育てます。

学習状況調査で「夢や目標をもっている」と答える児童・ 生徒の割合 (平成22年度 小学校 70.7%、中学校 44.1%)	小学校 72%、中学校 46%
---	-----------------

・ **県立高校の再編整備と魅力ある学校づくり**

県立高等学校再編整備計画に基づき、坂井地区、二州地区および若狭地区において、高校再編を進めます。

また、新たな形の中高一貫教育校や普通科系専門学科等を検討します。

・ **高校生の学力向上の推進**

大学入試センター試験等の分析、生徒の授業満足度や学習意欲・学習状況の調査等に基づき、教材や指導手引書を作成するとともに、「分かる授業」づくりを進めます。

また、県立高校31校が企画する進学希望者に対する特別講座の実施や、就職希望者対象の実践的技術指導等の活動を支援し、「総合的な学力」の向上を進めます。なお、「高校学力向上プロジェクトチーム」を設置し、県民の期待にこたえる高校教育のあり方を検討します。

授業満足度	60%
難関10大学志望者（県立現役） （平成22年度 545人）	570人

・ **英語コミュニケーション能力の向上**

英語教員の「指導力向上プログラム」を作成し、コミュニケーション能力の向上を重視した英語教育を推進します。

また、高校生を対象にALT等を活用した「土曜スクール」や海外語学研修等を実施することにより、英語を聞いたり話したりする機会を授業時間以外にも拡充します。

英語を続けたい生徒（高校3年） （平成22年度 42%）	44%
---------------------------------	-----

・世界に通じるサイエンスの応用力の育成

「ふくい理数グランプリ」や「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」など福井県独自のプログラムにより、中・高校生の理数分野への知的探究心を伸ばします。

また、授業では扱わない科学実験や実習を行う「スーパーサイエンスクラブ」の強化や、全国科学オリンピック等への参加の促進により、高校におけるサイエンス教育を推進します。

全国科学オリンピック等の参加者数 (平成22年度 100人)	110人
課題研究発表会の参加者数	100人

◇ 次をめざす教育の充実

・教員の授業力向上

個々の教員が作成した優れた教材や指導案をICTを用いて集約・共有する「教育情報フォーラム」を整備します。授業での活用や教員同士の意見交換を活発化し、日常的な授業改善を促進します。

また、公開授業と授業研究会を組み合わせる「授業力向上研修会」を拡充することにより、各教科の専門性の向上を図ります。

学習指導プランの登録数	
小学校 700件、中学校 420件、高校 200件	
(平成22年度 小学校 348件、中学校 210件、高校 91件)	

・教員の資質能力の向上【共同研究】

教育研究所と福井大学の研修・講座の融合、現職教員の修士化や独自の教員育成システムの構築など、福井大学と教育研究所の連携による教員の資質能力向上の仕組みを、全国に先駆けてつくります。

また、校種を越えた人事交流を積極的に進め、教員の資質向上と学校組織の活性化を図ります。

・ **小規模校の統合の支援と教育環境の充実**

小規模校の統合により生じる遠距離通学の負担の軽減、複式学級に在籍する児童の学習支援を通して、学校規模に応じた小中学校の教育環境を充実します。

また、小規模小学校において、近隣小学校との合同授業など多様な授業形態を実現し、児童が競争心をもって切磋琢磨する機会を増やします。

学習状況調査で「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか」 「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」の2項目の平均値	
小規模小学校（児童数100人以下）の上記2項目の平均値 （平成21年度 45.9%）	47%

・ **個性や能力を最大限に伸ばす総合的な教育体制の確立**

「元気福井っ子新笑顔プラン」に基づく本県独自の学級編制を引き続き実施するとともに、24年度以降のプランの充実に向けて検討を行います。

・ **「白川文字学」を活用した漢字教育のレベルアップ**

すべての小学校で、「白川文字学」を活かした漢字学習の副読本による授業を実施します。全学級担任教員が参加する公開授業や研究会を地域の拠点校で開催し、白川文字学を活用した漢字学習の拡大と質の向上を図ります。

また、漢字学を専門的に指導できる教員の養成講座を開設するなど、より質の高い漢字教育を目指します。

さらに、子どもから大人までの世代を対象にした「白川文字学」の講習会等を開催するとともに、出前講座により地域における漢字文化の普及活動を行います。

漢字教育推進拠点校における公開授業等への参加者数 (全学級数)	1,800人
------------------------------------	--------

・ **新聞を活用した教育活動の推進**

「こどもコラムコンテスト」の開催、新聞社と共働した教員向けのセミナー・ワークショップの実施など、全小中学校において新聞を活用した教育活動を推進します。

学習状況調査で「新聞やニュースに関心がある」と答える児童・生徒の割合
小学校 28%、中学校 24%
(平成22年度 小学校 26.0%、中学校 22.4%)

2 **技術と戦略で勝ち抜く福井の産業**

◇ **若者に雇用と所得を**

・ **地域を担う産業人材の育成【部局連携】**

職業系高校の公開授業や学校評価への企業人の参加、カリキュラム作成への助言など、産業界・企業と共働して人材育成を行う体制づくりを検討します。

また、県の試験研究機関や企業等と連携した技術指導を強化し、職業系高校生の実践的な技術力を育成します。

3 **新しい方向をひらく農林水産業**

◇ **食卓に「福井の食」(地産地消、地産外商)**

・ **毎日おいしい地場産給食の実現【部局連携】**

学校給食会や農林水産部との連携により、地場産農水産物を活用した献立の開発を行い、おいしい学校給食を提供します。

また、県内の2地域が相互に交流し、地元の特産物や郷土料理等を紹介したり、他地域の食・食文化について学んだりする機会を充実します。

学校給食をおいしいと感じる子どもの割合
62.5%
(平成22年度 60.1%)

4 国体めざす県民スポーツ、生活のなかに楽しむ県民文化

◇ 飛躍する福井のスポーツ

・ 第73回国民体育大会の開催に向けた準備

「第73回国民体育大会準備委員会」に、新たに輸送・交通、宿泊・衛生、式典の各検討会を設置するとともに、市町や競技団体から意見を聴取しながら、競技別会場地の選定や審判員等の養成開始、広報・PRなど開催準備を進めます。

福井国体に対する参加意欲 (平成22年度 65.1%)	6.7%
--------------------------------	------

・ 世界をめざすアスリートの養成

「福井県競技力向上対策本部」を設置し、競技団体へ指導・助言を行うことにより、ジュニアから成年までの一貫した選手育成・強化を進めます。

国体総合成績 (平成22年度 34位)	20位台
------------------------	------

・ 県有施設の整備

福井運動公園をはじめとする県有施設については、国体の開催と将来の利活用を考えながら、着実に改修等を進めます。

・ 平成24年度全国高等学校総合体育大会の開催に向けた準備

新潟県を中心に北信越5県で行う平成24年度インターハイに向けた準備を、県高体連、競技開催市町とともに進めます。

◇ 家でも外でも毎日運動

・すべての世代が楽しめるスポーツの推進

県民スポーツ祭の中に、新たに親子スポーツ体験イベントを行い、県民の誰もが気軽にスポーツを楽しめる機会を提供します。

また、様々なスポーツに対応できる総合型スポーツクラブの設立・育成を支援します。県民にスポーツを広めるとともに、冬季に屋内で活動できるニュースポーツを紹介するなど、スポーツ活動を啓発します。

県民のスポーツ実施率	37.5%
(平成22年度 35.0%)	

◇ 生活に福井の文化

・国宝・重要文化財、県文化財の指定をスピードアップ

県内の近代和風建築や白山信仰関係文書の詳細な調査、県内各地に残る貴重な日本庭園などを県文化財保護審議会委員が直接現地調査を行い、各種文化財の県指定に向け、歴史的・学術的な価値を明らかにします。

また、国に対して重要文化財等の指定を積極的に働きかけ、保存と活用を促進します。

国宝・重要文化財・県指定文化財の新規指定件数	8件
(平成15年～22年度の平均 7件/年)	

・子どもたちが一流の芸術・文化に触れる機会をさらに拡充

子どもたちが学校・地域・家庭において、身近に芸術・文化活動に参加できる機会を拡大します。

また、文化施設における本格的な鑑賞体験、プロの奏者による弦楽器指導など一流のアーティストの指導を受けられる場を増やすなど、子どもたちが本物の芸術・文化に触れる機会を拡充します。

一級の芸術・文化を体験する子どもの数	67,500人
(平成22年度 65,182人)	

・歴史博物館および美術館の充実

県立歴史博物館において、「泰澄」をテーマに白山文化の優れた歴史遺産の調査研究を進め、次年度以降の特別展において、その成果を紹介します。

また、館蔵資料等を活用し、子どもたちが本県の歴史・民俗を学ぶ体験型学習や、小・中学校において学芸員と教員の協働による出前授業を実施します。

県立美術館においては、鑑賞と創作を合わせて体験できる「キッズミュージアム」や、小・中学校等に館蔵作品を展示して学芸員が解説を行う出前鑑賞会を実施します。

・「福井ふるさと文学」の推進

県立図書館を核として、県民のふるさと文学に対する意識の高揚や文芸活動の活発化につなげる「福井ふるさと文学」の推進に向けた基本構想をまとめます。

ふるさと文学の貸出冊数	5,000冊
(平成22年度 4,438冊)	

・「こども歴史文化館」事業の充実

紙芝居の達人による紙芝居展の開催、小浜藩初代藩主 京極高次・お初夫妻等展示人物の追加などを行い、郷土を愛する子どもを育てる「ふるさと教育」の拠点として、さらに充実を図ります。

「こども歴史文化館」の来館者数	30,000人
(平成22年度 29,370人)	チャレンジ目標 33,000人

5 若者のチャレンジと女性の活躍を応援

◇ 子どもがたくさん、家族を応援

・「放課後子どもクラブ」を小学校6年生まで拡充

地域の実情に合わせて「放課後子どもクラブ」を実施し、子どもの安全・安心で健やかな活動場所を確保します。

また、6年生までの希望する児童の受入れが進むよう、市町を支援します。

6年生まで受け入れる小学校区数	190校区
(平成22年度 183校区(90.1%))	

6 日本一の安全・安心（治安向上から治安実感へ）

◇ 治安実感プログラム

・ 安全教育の徹底と防犯活動の支援【部局連携】

教職員等に対する防犯教室講習会の開催、青色灯をつけた自動車の巡回による見守り活動の充実など、登下校時を含めた子どもの安全確保や防犯活動を支援します。

◇ 地震・異常気象・災害などに迅速対応

・ 子どもを守る耐震化の促進

児童生徒の学習の場、地域住民の応急避難場所となる小・中学校施設の耐震化を促進し、災害時の安全・安心を確保します。

耐震補強工事

15棟

（平成22年度 47棟（23年度への繰越しを含む））